横浜市立 岩崎小学校　　令和　3　年度版　中期学校経営方針　（ 令和 元 ～ 3 年度 ）

学校教育目標	ひとがすき　まちがすき　いわさきの子 (知)ともに学び合い、ねばり強く解決していける子を育てます。 (徳)自分も友達も大好きで、心豊かに正直に生きる子を育てます。 (体)心と体の健康を鍛え、自分や人の生命と体を大切にする子を育てます。 (公)「ひとがすき、まちがすき、いわさきの子」をめざし、地域と豊かにかかわり、共に生きる子を育てます。 (開)様々な人々とのコミュニケーションや体験を通して、日本や世界の文化や歴史を学び、社会の変化に対応できる子を育てます。

学校概要	創立　91　周年	学校長　　小林　雅弘	副校長　佐々木　唯吉	2　学期制	一般学級：12　　個別支援学級：2
	児童生徒数：　344　　人	主な関係校：岩崎中学校			

教育課程全体で育成を目指す資質・能力
〈自分づくりに関する力〉 ～なりたい自分を見つける力～

岩崎中ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
岩崎中学校 瀬戸ケ谷小学校 保土ケ谷小学校 桜台小学校	自ら生活を切り拓いていくために、課題を見つけ、解決しようとする主体的な児童・生徒。 ・ブロックで共通理解した身につけさせたい資質・能力＜自分づくりに関する力＞の習得のために、教育課程作成に関して はブロック内各小学校の管理職と打ち合わせ会をもつなど、緊密な情報交換のもとに取り組む。 ・授業交流・参観や主幹会議などを定期的に開催し、9年間で育てたい児童・生徒像をブロック内教職員で共有すると共に、成果や課題について共通理解できるようにする。

中期取組目標	○全教育活動を通して、自己有用感に裏づけられた自尊感情を育てます。 ○一人ひとりの子どもにしっかり教え、しっかり引き出す指導を通して、「知」「徳」「体」「公」「開」で示す「横浜の子ども」を育てます。 ○子どもたちが安心して過ごすことのできる、安全な学校づくり、教育環境づくりに努めます。 ○地域・保護者に「開かれた学校」を推進するとともに、学校運営協議会とも連携して子どもの成長を支えます。 ○教育課題に協働して取り組む中で、教職員の資質の向上を図ります。

重点取組分野		具体的取組
生きてはたらく知	担当　研究部	①年間を通して、各クラスで児童に、聞く・話す等の学習ルールが定着するよう、随時指導する。②対話的で深い学びを実現し、確かな言語能力を育てていく。③朝読書・漢字・計算を通して、落ち着いた学習態度を育て、基礎的な学力向上を目指す。④学年内・校内での教材研究に努め、人権的視点も意識した授業力の向上を目指す。
豊かな心	担当　道徳部・児童指導部	①自己の振り返りや他者との対話の時間を大切することで、道徳の時間の指導の充実を図る。②道徳の学びをその他の学校活動と繋げることで、学校行事等を道徳的実践の場としていけるようにする。③道徳の時間だけでなく、各教科の特質に応じて、道徳的価値の自覚と自己の生き方について考えを深めるなど道徳性を養う機会を充実する。
健やかな体	担当　体育部・養護部	①ねらいを明確にした運動量のある授業づくりに努める。②「いきいきタイム」の実施時期及び内容についての見直し、修正を図る。③学校保健委員会と運動委員会と連携し、休み時間に継続して運動や遊びに取り組むような意欲付けを図る。
特別支援教育	担当　特別支援コーディネーター	①特別に配慮が必要な児童及び個別支援学級の児童についての情報共有・意見交換の場を定期的に設定し、全教職員が共通理解のもと、一貫して指導や対応に当たる。 ②支援が必要な児童に適切な指導を行うために、外部機関と連携や、研修の充実を図る。
児童生徒指導	担当　児童指導部	①学年は個々の児童の様子を共有し、同じ考え方でほめ、しかることを確認する。専任とも連携を図り、組織的に対応し、記録を残す。②児童指導部、専任を中心に、児童の細かい変容を敏感にキャッチし、いじめの解決や個々に抱えている困り感を学校全体で共有し見守る。
体験的活動の重視	担当　地域連携担当	令和3年度は、児童にマスク、手洗いの徹底、宿泊先の感染症拡大防止の措置もしっかりされていることから、令和元年度までの本校での具体的取組を実践するとともに、下学年や保護者、学校運営協議会等への実施報告といった周知に取り組んでいく。 ①令和元年度までの取組から、児童に自主性を身につけさせるためのﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑの工夫と児童の充実感や達成感の向上に努める。②下学年や保護者、学校運営協議会等への実施報告といった積極的な周知に取組み、総合的な支援・協力体制のさらなる強化を図る。
地域との連携	担当　教務部	①学校評価の結果、情報交換がまだ不十分であることが明らかになった。感染防止対策のために未実施だった授業参観を実施したり教育活動の目的を積極的に伝えたりする。 ②教科横断的な視点からカリキュラムマネジメントを推進し地域人材の開発につなげたい。
	担当	
いじめへの対応	担当　いじめ防止対策委員会	①常日頃から、児童に寄り添った指導と児童理解に努める。また、保護者とのコミュニケーションも密に図るようにする。②児童の気になる言動については、学年研等で絶えず共有化を図り、状況によっては、管理職、専任からなるチームで共通指導方針を立て、迅速かつ組織的な支援に努める。
人材育成・組織運営（働き方改革）	担当　研修部	①GIGAスクール構想をもとにICTを中心に様々な観点・視点からの校内研修を継続的に実施し教職員のスキルアップを図る。②キャリアステージにそって設定した目標をもとに面談し、学校づくりへの参画意識の向上を図り職員の自己有用感を高める。③メンターチームの研修は校内人材を講師とし、活用していく。